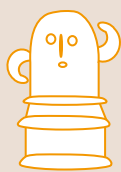




瓦についてもっと知りたくなったら
埋蔵文化財センターに見に来てネ!



水戸の時空を ひとまたぎ

第11回

瓦はダイヤモンド

「瓦」という漢字を使う言葉に「瓦礫」があります。建物などの破片のほか、役に立たず価値のないものを表す言葉です。しかし、瓦は、歴史の真実を伝えるという点で、ダイヤモンドのような存在なのです。

問合せ／埋蔵文化財センター
(☎269・5090)



①瓦の出土状況(台渡里官衙遺跡群長者山地区)
②桶巻き作りの再現例 ③一枚作りの再現例
(日本窯業史研究所提供)



出土した瓦の整理では、まず、丸瓦や平瓦などの種類で分類し、どのような技法で作られているかを観察します。その後、どの瓦がどの建物からどれだけ出てきているかを導き出します。例えば、台渡里官衙遺跡群長者山地区の正倉院の調査では、調査面積約73㎡に対して、破片数約1万8千点、総重量約2.5トンの瓦が出土しました。この量の瓦を細かく分析することは、終わりの見えないような大変な作業ですが、その対価として、多くのことが明らかになります。

瓦作りの大きな節目は奈良時代で、国分寺造営の前後で分かれます。平瓦は、「桶巻き作り」と呼ばれる技法から「一枚作り」という大量生産に適した技法に変化しました。この事実を踏まえ、どの窯跡で焼かれ、どのような技法で作られた瓦であるかを調べると、その遺跡のおおよその年代がわかるのです。

台渡里廃寺の瓦を生産した木葉下窯跡群の調査では、一枚作りの平瓦の年代は8世紀後半頃であることや、9世紀には土器作り職人が瓦を作る際に用いた「泥条盤築」と呼ばれる技法が使われていたことがわかりました。このことが創建年代や補修・廃絶の時期を考える手掛かりとなり、台渡里廃寺が9世紀頃(平安時代)に大々的に改築されたことが判明しつつあります。

大量の瓦を分析することは、徒労のように思われるかもしれませんが、しかし、歴史を解明しようとするとき、私たちにとって、瓦はダイヤモンドのように輝いて見えるのです。

埋蔵文化財センター 新垣清貴

ダイダラボウのひとりごと ～数学?いいえ、考古学です!～

瓦の整理は、分類だけでなく、数を数えて重さを量ることも大切なんだ。

屋根瓦については、丸瓦のほうが平瓦より少ないのが一般的。長者山地区の正倉院は、丸瓦は370.14kg、平瓦は1,501kgだったよ。完形の丸瓦、平瓦の一枚あたりの重さをそれぞれ2kg、4kgとして計算すると、丸瓦185枚、平瓦375枚が出土したことがわかる。

この枚数の比率から、丸瓦1枚あたりに、平瓦が2枚重なる形で葺かれていたことが



瓦の葺き方の再現展示

わかるんだ!

さらに丸瓦の完形の長さがおよそ27cmだから、2で割ることで、平瓦を13.5cmずつ、ずらしながら葺いていたなんてことまで判明するんだよ。



9月にも登場したダイダラボウS。中原中也をこよなく愛しているらしい。

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ / <https://www.city.mito.tokyo.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kounhou@city.mito.tokyo.jp